

(別 添)

## 香川県立中央病院 歯科医師臨床研修の内容及び到達目標

### I 研修内容

卒前に習得した事項を基本として口腔疾患の診査、診断、および治療を的確に行うために必要な基本的な知識、技術、判断力、EBMに基づいた問題解決能力を研修する。さらに入院、手術症例を含めた口腔外科疾患への対応、他科入院患者等の全身管理下での歯科診療など医科と歯科の連携体制を理解できるようにする。さらに、他の医療・介護・リハビリスタッフと連携して取り組む要介護者への訪問歯科診療、介護保険サービスおよび歯科疾患予防を目的とした地域歯科保健、公衆衛生的手法を研修する。研修内容の詳細は以下のとおりである。

#### (1) 問診技法の習得

研修内容；患者や家族から現病歴、既往歴、家族歴、歯科治療上問題となるような疾患等を聴取する

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、聴取を行う。

症例数の数え方；治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

#### (2) 診断に必要な診査法の習得

- A. 顎顔面領域の視診、触診、聴診、打診
- B. 簡単な器具を用いた一般診査（血圧測定、顎関節の診査、咀嚼筋等の診査等）
- C. 診療用顎模型による診査
- D. 顎顔面及び口腔内写真撮影
- E. X線撮影（歯科用デンタル、パノラマ、口外法）及び読影
- F. う蝕の診査（う蝕診査基準、歯髄診断、根管長測定、根管内細菌培養等）
- G. 歯周病の診査（動揺度、歯周ポケット測定、歯周ポケット浸出液等）
- H. 歯列及び咬合関係の診査（咬合器、サベイングとアンダーカットの測定、平行測定、隣接面う蝕の診査、咬合平面の診査）
- I. 採血、穿刺
- J. 血液、生化学、尿検査等

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、診査を行う。

症例数の数え方；治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

### (3) 診療計画の作成、患者説明

- A. 情報収集（文献検索を含む）
- B. 診療計画の作成（EBMに基づいた治療計画の作成）
- C. 口腔内状況、治療法に関する情報や治療計画、予後、偶発症を患者に十分説明し、同意を得る（インフォームドコンセント）

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方；治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

### (4) 診療録等の作成

- A. カルテ等の医療記録の記載
- B. 処方箋、歯科技工指示書の発行
- C. 診断書、その他の証明
- D. 紹介状、返答状、情報提供書

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、作成を行う。

症例数の数え方；治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

(5) 歯科疾患予防の知識及び処置法の習得

- A. う蝕予防、歯周病予防の基本的知識の習得及び患者指導の技能
- B. フッ素塗布
- C. フッ素洗口剤の処方・洗口法の指導
- D. 予防填塞（シーラント）
- E. ブラッシング法の習得（Tooth-pick Method）
- F. 歯周病のメンテナンス
- G. 知覚過敏処置
- H. 歯科衛生士への指示

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

（すべての流れを経験することが望ましい）

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

(6) う蝕処置（保存療法）の習得

- A. 除痛処置（薬物による局所鎮静療法）
- B. 局所麻酔法（塗布麻酔、浸潤麻酔）
- C. 罹患歯質の削除
- D. レジン修復法
- E. インレー修復法
- F. 歯髄処置（保存療法、断髄＜乳歯の生切＞、抜髄法）
- G. 感染根管治療
- H. 歯周病治療（スケーリング、ルートプレーニング、暫間固定、歯周ポケット搔爬、歯肉切除、フラップ手術）

必要な症例数；10例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

（すべての流れを経験することが望ましい）

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計10例以上経験していることが必要。

(7) 補綴治療の習得

- A. 歯冠修復処置
- B. 固定式欠損補綴処置
- C. 可撤式欠損補綴処置（部分床義歯、全部床義歯）
- D. 補綴物破損の修理・調整

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

（すべての流れを経験することが望ましい）

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

(8) 口腔外科外来手術

- A. 消毒法
- B. 局所麻酔法（伝達麻酔）
- C. 抜歯（普通抜歯、難抜歯、埋伏抜歯）
- D. 手術後処置（抜糸、止血処置含む）
- E. 口腔内消炎手術（膿瘍切開、歯肉弁切除、歯肉息肉除去、骨髄炎等）
- F. 口腔外消炎手術
- G. 頬口唇舌小帯整形手術
- H. 歯槽骨整形手術
- I. 口腔内縫合手術
- J. 外傷歯の処置
- K. 抜歯窩再搔爬術
- L. 歯根端切除術
- M. 歯根嚢胞摘出術
- N. 歯肉歯槽粘膜整形術
- O. 遊離歯肉移植術
- P. 歯根分離術、歯根切除術
- Q. ショックの応急処置

必要な症例数；20例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計20例以上経験していることが必要。

(9) 顎関節疾患治療法の習得

- A. 顎関節症の分類
- B. 顎関節症の診断と治療法の選択
- C. 薬物療法
- D. 筋開口訓練法
- E. マイオモニター
- F. 咬合挙上版の作成、咬合調整

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

(10) 入院手術症例

- A. 現病歴、既往歴、家族歴の確認・把握
- B. 入院診療録の記載
- C. 術前血液生化学、尿検査等
- D. 術前画像診断（CT、MRI）
- E. 心電図の理解
- F. 輸血用準備血液の確認
- G. 静脈内鎮静法
- H. モニタリングシステムの理解
- I. 全身麻酔法の理解
- J. 手術室での手洗い、術衣、手袋の取り扱い
- K. 口腔外科手術法の理解
- L. 手術介助手技の習得
- M. 薬剤の投与法、投与量の選択・適応、副作用発現時の対処法の習得

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方；治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

#### (1 1) 有病者歯科治療

- A. Vital sign の取り方
- B. 循環器疾患患者の歯科治療
- C. 心疾患患者の歯科治療
- D. 脳血管障害患者の歯科治療
- E. 腎疾患患者の歯科治療
- F. 呼吸器疾患患者の歯科治療
- G. 肝疾患患者の歯科治療
- H. 代謝疾患患者の歯科治療
- I. 血液患者の歯科治療
- J. 心身障害（児）者の歯科治療

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方；治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

#### (1 2) 矯正治療

- A. 不正咬合の分類
- B. 矯正治療の資料取得
- C. 矯正治療の診査の理解
- D. 矯正治療計画の理解
- E. 矯正治療内容の理解

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

#### (13) 訪問歯科診療、介護保険

- A. 介護保険制度の理解
- B. 要介護者にかかわる医療・介護担当者間の連携体制の理解
- C. 要介護者のアセスメント
- D. 訪問歯科診療機器の準備
- E. 要介護者に対する基本的な歯科治療
- F. 口腔ケアに関する理論、手技の理解

必要な症例数；5例

研修歯科医の指導体制；上級歯科医・指導歯科医が研修歯科医に患者を配当し、研修歯科医は上級歯科医・指導歯科医の指導の下、治療を行う。

症例数の数え方：治療の流れを連続して経験した場合を1症例として数える。

(すべての流れを経験することが望ましい)

修了判定の評価基準；目標達成の基準として、合計5例以上経験していることが必要。

#### (14) 地域歯科保健

- A. 公衆衛生の理解
- B. 地域診断
- C. 地域歯科保健戦略の理解・立案
- D. フッ化物応用の必要性、公衆衛生的使用方法の理解
- E. 歯科健診、事後処置
- F. 集団指導

必要な症例数；3例

研修歯科医の指導体制；各研修歯科医を担当する上級歯科医・指導歯科医を決め、レポート作成の際にサポート等を行う。

修了判定の評価基準；レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、レポートを3例以上提出することが必要。

(15) 専門的知識、臨床研究法の習得

- A. EBMの理解
- B. 文献検索方法
- C. 文献抄読
- D. 臨床研究計画の立案
- E. 統計処理

必要な症例数；3例

研修歯科医の指導体制；各研修歯科医を担当する上級歯科医・指導歯科医を決め、レポート作成の際にサポート等を行う。

修了判定の評価基準；レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、レポートを3例以上提出することが必要。

(16) 歯科医師の社会的役割の理解

- A. 医の倫理、生命の倫理
- B. プライバシー保護の理解
- C. 地域保健の理解
- D. 在宅医療の理解
- E. 歯科医師法、保健医療法規、医療保険制度の理解

必要な症例数；3例

研修歯科医の指導体制；各研修歯科医を担当する上級歯科医・指導歯科医を決め、レポート作成の際にサポート等を行う。

修了判定の評価基準；レポートは指導歯科医が評価を行い、目標達成の基準として、レポートを3例以上提出することが必要。



## II 研修到達目標・評価

### (1) 一般到達目標

#### ① 国民から望まれる歯科医師像の実現

項 目	自己評価	指導医評価
患者の歯科健康上の不安や障害を的確に排除、緩和できる	A B C D	A B C D
自ら行った処置の予後についての予測ができる	A B C D	A B C D
歯科保健の保持増進のための助言、援助ができる	A B C D	A B C D
自己の能力の限界を知り、常に研修意欲を持つ	A B C D	A B C D
患者に対して十分な説明を行い、同意を得られる	A B C D	A B C D
歯科診療上の偶発的な事態に適切に対処できる	A B C D	A B C D

#### ② 歯科医師の社会的役割の理解

項 目	自己評価	指導医評価
医の倫理、生命の倫理が理解できる	A B C D	A B C D
プライバシー保護の概念が理解できる	A B C D	A B C D
地域保健の中での役割が理解できる	A B C D	A B C D
在宅医療の中での役割が理解できる	A B C D	A B C D
歯科医師法、保健医療法規、医療保険制度が理解できる	A B C D	A B C D

## (2) 具体的到達目標(I)

### ●卒前に修得した事項を基本にして研修する内容

#### ① 問診、診査

項 目	自己評価	指導医評価
現病歴、既往歴、家族歴、歯科治療上問題となるような疾患等を聴取する	A B C D	A B C D
顎顔面領域の視診、触診、聴診、打診	A B C D	A B C D
簡単な器具を用いた一般診査（血圧測定、顎関節の診査、咀嚼筋等の診査等）	A B C D	A B C D
診療用顎模型による診査	A B C D	A B C D
顎顔面及び口腔内写真撮影	A B C D	A B C D
X線撮影（歯科用デンタル、パノラマ、口外法）及び読影	A B C D	A B C D
う蝕の診査（う蝕の診査基準、歯髄診断、根管長測定、根管内細菌培養等）	A B C D	A B C D
歯周病の診査（動揺度、歯周ポケット測定、歯周ポケット浸出液等）	A B C D	A B C D
歯列及び咬合関係の診査（咬合器、サベイングとアンダーカットの測定、平行測定、隣接面う蝕の診査、咬合平面の診査）	A B C D	A B C D
採血、穿刺	A B C D	A B C D
血液、生化学、尿検査等	A B C D	A B C D

#### ② 診療計画の作成、患者説明

項 目	自己評価	指導医評価
情報収集（文献検索を含む）ができる	A B C D	A B C D
診療計画の作成（EBMに基づいた治療計画の作成）ができる	A B C D	A B C D
口腔内状況、治療法に関する情報や治療計画、予後、偶発症を患者に十分説明し、同意を得ることができる（インフォームドコンセント）	A B C D	A B C D

③ 診療録等の作成

項 目	自己評価	指導医評価
カルテ等の医療記録の記載が適切にできる	A B C D	A B C D
処方箋、歯科技工指示書が発行できる	A B C D	A B C D
診断書、その他の証明が作成できる	A B C D	A B C D
紹介状、返答状、情報提供書が作成できる	A B C D	A B C D

④ 歯科疾患予防の知識及び処置法

項 目	自己評価	指導医評価
う蝕予防、歯周病予防の基本的知識及び患者指導の技能	A B C D	A B C D
フッ素塗布	A B C D	A B C D
フッ素洗口剤の処方・洗口法の指導	A B C D	A B C D
予防填塞（シーラント）	A B C D	A B C D
ブラッシング法の習得（Tooth-pick Method）	A B C D	A B C D
歯周病のメンテナンス	A B C D	A B C D
知覚過敏処置	A B C D	A B C D
歯科衛生士への指示が適切にできる	A B C D	A B C D

⑤ う蝕処置（保存療法）

項 目	自己評価	指導医評価
除痛処置（薬物による局所鎮静療法）	A B C D	A B C D
局所麻酔法（塗布麻酔、浸潤麻酔）	A B C D	A B C D
罹患歯質の削除	A B C D	A B C D
レジン修復法	A B C D	A B C D
インレー修復法	A B C D	A B C D
歯髄処置（保存療法、断髄<乳歯の生切>、抜髄法）	A B C D	A B C D
感染根管治療	A B C D	A B C D
歯周病初期治療（スケーリング、ルートプレーニング、暫間固定）	A B C D	A B C D
歯周病治療（歯周ポケット搔爬、歯肉切除、フラップ手術）	A B C D	A B C D

⑥ 補綴治療の習得

項 目	自己評価	指導医評価
歯冠修復処置 (FCCr、前装冠の形成、印象、Set)	A B C D	A B C D
固定式欠損補綴処置 (Bridge)	A B C D	A B C D
可撤式欠損補綴処置 (部分床義歯、全部床義歯)	A B C D	A B C D
補綴物破損の修理・調整	A B C D	A B C D

⑦ 口腔外科外来手術

項 目	自己評価	指導医評価
消毒法	A B C D	A B C D
局所麻酔法 (伝達麻酔)	A B C D	A B C D
抜歯 (普通抜歯)	A B C D	A B C D
手術後処置 (抜糸、止血処置含む)	A B C D	A B C D
口腔内消炎手術 (膿瘍切開、歯肉弁切除)	A B C D	A B C D

### (3) 具体的到達目標(Ⅱ)

#### ●具体的到達目標(Ⅰ)の習熟した項目に加え、習熟する内容

##### ① 口腔外科外来手術

項 目	自己評価	指導医評価
抜歯（難抜歯、埋伏抜歯）	A B C D	A B C D
口腔内消炎手術（歯肉息肉除去、骨髄炎等）	A B C D	A B C D
口腔外消炎手術	A B C D	A B C D
頬口唇舌小帯整形手術	A B C D	A B C D
歯槽骨整形手術	A B C D	A B C D
口腔内縫合手術	A B C D	A B C D
外傷歯の処置	A B C D	A B C D
抜歯窩再搔爬術	A B C D	A B C D
歯根端切除術	A B C D	A B C D
歯根嚢胞摘出術	A B C D	A B C D
歯肉歯槽粘膜整形術	A B C D	A B C D
遊離歯肉移植術	A B C D	A B C D
歯根分離術、歯根切除術	A B C D	A B C D
ショックの応急処置	A B C D	A B C D

##### ② 顎関節疾患治療法

項 目	自己評価	指導医評価
顎関節症の分類	A B C D	A B C D
顎関節症の診断と治療法の選択	A B C D	A B C D
薬物療法	A B C D	A B C D
筋開口訓練法	A B C D	A B C D
マイオモニターを用いた治療法	A B C D	A B C D
咬合拳上版の作成、咬合調整	A B C D	A B C D

##### ③ 有病者歯科治療

項 目	自己評価	指導医評価
Vital sign が正しく把握できる	A B C D	A B C D
循環器疾患患者の歯科治療	A B C D	A B C D
心疾患患者の歯科治療	A B C D	A B C D
脳血管障害患者の歯科治療	A B C D	A B C D

腎疾患患者の歯科治療	A B C D	A B C D
呼吸器疾患患者の歯科治療	A B C D	A B C D
肝疾患患者の歯科治療	A B C D	A B C D
代謝疾患患者の歯科治療	A B C D	A B C D
血液患者の歯科治療	A B C D	A B C D
心身障害（児）者の歯科治療	A B C D	A B C D

④ 地域歯科保健

項 目	自己評価	指導医評価
公衆衛生が理解できる	A B C D	A B C D
歯科保健にかかわる地域診断ができる	A B C D	A B C D
地域歯科保健戦略の理解・立案ができる	A B C D	A B C D
フッ化物応用の必要性、公衆衛生的使用方法の理解できる	A B C D	A B C D
歯科健診、事後処置ができる	A B C D	A B C D
集団指導が適切にできる	A B C D	A B C D

#### (4) 具体的到達目標(Ⅲ)

##### ●具体的到達目標(Ⅰ)、(Ⅱ)の習熟した項目に加え、本院の特徴として研修する項目

###### ① 入院手術症例

項 目	自己評価	指導医評価
現病歴、既往歴、家族歴の確認・把握	A B C D	A B C D
入院診療録の記載ができる	A B C D	A B C D
術前血液生化学、尿検査	A B C D	A B C D
術前画像診断（CT、MRI）	A B C D	A B C D
心電図の理解ができる	A B C D	A B C D
輸血用準備血液の確認	A B C D	A B C D
静脈内鎮静法	A B C D	A B C D
モニタリングシステムの理解ができる	A B C D	A B C D
全身麻酔法の理解ができる	A B C D	A B C D
手術室での手洗い、術衣、手袋の取り扱いができる	A B C D	A B C D
口腔外科手術法が理解できる	A B C D	A B C D
手術介助手技ができる	A B C D	A B C D
薬剤の投与法、投与量の選択・適応、副作用発現時の対処ができる	A B C D	A B C D

###### ② 訪問歯科診療、介護保険

項 目	自己評価	指導医評価
介護保険制度が理解できる	A B C D	A B C D
要介護者にかかわる医療・介護担当者間の連携体制が理解できる	A B C D	A B C D
要介護者のアセスメントが適切にできる	A B C D	A B C D
訪問歯科診療機器の準備ができる	A B C D	A B C D
要介護者に対する基本的な歯科治療	A B C D	A B C D
口腔ケアに関する理論、手技を理解できる	A B C D	A B C D

③ 矯正治療

項 目	自己評価	指導医評価
不正咬合の分類	A B C D	A B C D
矯正治療の資料取得	A B C D	A B C D
矯正治療の診査の理解	A B C D	A B C D
矯正治療計画の理解	A B C D	A B C D
矯正治療内容の理解	A B C D	A B C D

④ 専門的知識、臨床研究法の習得

項 目	自己評価	指導医評価
E BMの理解	A B C D	A B C D
文献検索方法	A B C D	A B C D
文献抄読	A B C D	A B C D
臨床研究計画の立案	A B C D	A B C D
統計処理	A B C D	A B C D